

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史・世界史A	1	2	高等学校改訂版 世界史A（第一学習社）	明解世界史図説エスカリエ九訂版(帝国書院)
科目の概要と目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
単元	学習内容	到達度目標		
第1編 世界史へのいざない 1.自然環境と歴史 2.日本列島のなかの世界の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>人と海とのかかわり</li> <li>鉄砲伝来の世界史</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然活動と人間の活動の関係を考察する。</li> <li>鉄砲伝来という日本史上のトピックの世界史的意味を考察する。</li> </ul>		
第1章 ユーラシアの諸文明 1.東アジア 2.南アジア 3.東南アジア 4.西アジア 5.ヨーロッパ	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国文明の成立から皇帝政治の確立</li> <li>漢を中心にした東アジア</li> <li>中国の分裂と隋唐帝国の形成</li> <li>宋の成立と東アジア諸地域</li> <li>南アジア世界の成立と発展</li> <li>東南アジア世界の形成</li> <li>オリエント</li> <li>イスラーム世界の成立</li> <li>古代ギリシアとローマ</li> <li>東西ヨーロッパ世界の形成</li> <li>西ヨーロッパの緊張と危機</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前近代の東アジアでは、中国の皇帝を中心に同心円的な広がりを持つ世界観が共有され、日本を含めて民族・地域の間を規定していたことを考察する。</li> <li>中国を通して東アジアに広まった漢字・儒教・仏教・道教の基本的な考え方とその役割について考察する。</li> <li>バラモン教をもとにうまれたヒンドゥー教がインド特有の社会をつくりあげていったことを理解する。</li> <li>東南アジアについては中国文化とインド文化の影響をうけながら、その後イスラームが伝播したことを理解する。</li> <li>メソポタミアとエジプトの古代文明について理解する。</li> <li>アラビア半島で誕生したイスラームの発展について考察する。</li> <li>ギリシア、ローマの時代から中世ヨーロッパの時代までを一続きに概観することを通して、ヨーロッパ地の地域的特色を考察する。</li> <li>イスラーム世界との接触や交流を理解する。</li> </ul>		
第2編 第2章 結びつく世界と近世の日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>14～15世紀の東アジア</li> <li>14～17世紀のアジアの海</li> <li>清と東アジア</li> <li>ヨーロッパの大航海時代</li> <li>アメリカ大陸の変容</li> <li>ルネサンスと宗教改革</li> <li>17～18世紀のヨーロッパ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この時代は活発な交易活動により、多くの国家が生まれたが、その交易ネットワークに参加していったことを理解する。</li> <li>清の支配体制は、異民族王朝としての特異な側面を持つと同時に、「中国的」なものの基礎をつくったという面について考察する。</li> <li>ポルトガルとスペインの航路を確認し、アジア、アフリカ、アメリカとのグローバルな交易圏が成立したことと、その結果ヨーロッパに価格革命や商業革命といった大きな変化をもたらされたことを理解する。</li> </ul>		
モノから学ぶ世界史	<ul style="list-style-type: none"> <li>東アジアの交易ブームと日本の銀</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦国時代から江戸時代にかけての日本は石見銀山を通して世界とどのようにつながっていたのか考察する。</li> </ul>		
第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業革命</li> <li>労働運動と社会主義運動のはじまり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業革命が生活、社会、経済の構造を世界中で変化させた歴史的過程であったことを現在の生活との関わりで理解する。</li> <li>産業資本家の自由な経済活動が多くの人々を貧困に陥れたことから社会主義思想が生まれてきたことを理解し、それが労働運動や政治に与えた影響を現在のワーキング・プアの問題とも関連させ、考察する。</li> </ul>		
モノから学ぶ世界史	<ul style="list-style-type: none"> <li>紅茶と砂糖</li> <li>アメリカ独立革命</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業革命とお茶や砂糖の関係、奴隷労働に基づくプランテーション、アヘン戦争との関連について考察する。</li> <li>アメリカ独立戦争の背景やアメリカの国家形成について、今日のアメリカと関連づけて考察する。</li> </ul>		
序章 私たちの時代と歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>フランス革命</li> <li>イギリスに挑戦したナポレオン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フランス革命からナポレオン戦争に至る過程において、人々の日常生活から政治、経済、社会、文化そして国際関係まで、様々な変化を理解する。</li> </ul>		
〈郷土史：ふるさと富山〉 江戸時代の越中	<ul style="list-style-type: none"> <li>富山売薬の発展</li> <li>北前船の活躍</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代、日本は四つの窓口を通じて異国・異民族との交易が行われていたが、越中売薬商人と北前船によってアジア交易の一翼が担われていたことを班別学習で理解する。</li> </ul>		
第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>大西洋をはさんだ革命</li> <li>ウィーン体制</li> <li>イギリスの繁栄</li> <li>二月革命と第二帝政</li> <li>イタリアとドイツの統一</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ラテンアメリカ諸国の独立の様子と独立後の状況について理解し、現在にも継続する問題について考察する。</li> <li>イギリスの自由主義的改革の特色と、19世紀議会政治の発展について理解する。</li> <li>19世紀におけるフランスの政体の変遷とその特色について理解する。</li> <li>イタリアとドイツにおける統一の過程と、統一後の状況について理解する。</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシアの近代化とバルカン半島</li> <li>・アメリカ合衆国の膨張</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ南部の奴隷制度の可否をめぐり、南北戦争に発展したことを理解する。</li> </ul>
第4章 アジア諸国の変貌と近代の日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界市場の形成</li> <li>・オスマン帝国の衰退と西アジア</li> <li>・南アジアの植民地化とインド帝国</li> <li>・清の動揺</li> <li>・明治維新と東アジア</li> <li>・中国分割の危機と日本</li> <li>・アジア諸国の変革</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・19世紀におけるイギリスをはじめとする西ヨーロッパ諸国とアメリカの工業化の進展により、アジア諸国が世界的な分業体制に組み込まれていったことを理解する。</li> <li>・西アジア諸地域の変容の課程を理解する・</li> <li>・イギリスによるインドの植民地化の過程と、インドのエリート層からイギリスを批判する人々が現れることを理解する。</li> <li>・清による支配体制が、ヨーロッパ勢力の進出によって揺らぎ、やがては崩壊していく過程を理解する。</li> <li>・日本が、近代化を進めながら、東アジア地域に進出していった経過をその背景にあった考え方とともに考察する。</li> <li>・中国分割に対する清の対応や、民主の排外運動について理解する。</li> <li>・辛亥革命とアジア諸国の反帝国主義運動の高まりを理解する。</li> </ul>
第3編 第1章 帝国主義の時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帝国主義の時代</li> <li>・列強の世界政策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1870年代以降の帝国主義政策を、植民地獲得の面で理解する。</li> <li>・ドイツとそれに対抗するイギリス、フランス、ロシアの対応を理解する。</li> </ul>
第2章 急変する人類社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアの太平洋地域の分割とロシア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太平洋地域の分割がどの国によって、どのように行われたのかを理解すると同時に、太平洋地域への進出にどのような意味があるのか理解する。</li> </ul>
第3章 世界戦争と平和	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大衆の登場と国民統合</li> <li>・第一次世界大戦</li> <li>・ロシア革命と大戦の終結</li> <li>・ヴェルサイユ・ワシントン体制</li> <li>・アメリカとヨーロッパ</li> <li>・東アジアの民族運動</li> <li>・アジアの独立運動とラテンアメリカ</li> <li>・世界恐慌</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・19世紀末から欧米ではホワイトカラー層が出現し、大衆社会を形成したことを理解する。</li> <li>・第一次世界大戦が史上最初の大規模な総力戦であり、交戦国に多大な損害をもたらしたことを理解する。</li> <li>・ロシア革命の原因とその経過について理解する。</li> <li>・ヴェルサイユ条約はドイツ、ワシントン体制は日本を牽制する目的で形成されたことを理解する。</li> <li>・朝鮮の三・一独立運動、中国の五・四運動の背景を考察する。</li> <li>・アジアで独立運動が高揚した背景を理解する。</li> <li>・各国の恐慌対策（アメリカ：ニューディール、イギリス：ブロック経済など）で政府による経済介入の結果、「持てる国」と「持たざる国」の新たな対立が起こったことを考察する。</li> </ul>
第3章 世界戦争と平和	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシズムの台頭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イタリアドイツでファシズムが台頭した背景と独裁制、個人の抑圧、強硬外交といった共通する特色を理解する。</li> </ul>
第4章 三つの世界と日本の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の軍国主義と中国</li> <li>・第二次世界大戦の勃発</li> <li>・第二次世界大戦の終結</li> <li>・戦後世界の出発</li> <li>・戦後の東アジア</li> <li>・アジア諸国の独立</li> <li>・戦後の西アジア・アフリカ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満州事変と日中戦争について経過・性格について考察する。</li> <li>・第二次世界大戦の一環としての太平洋戦争の意味と経過、終結について理解する。</li> <li>・国際連合の設立過程と戦後のアメリカとソ連の東西冷戦について考察する。</li> <li>・国共内線の結果、「二つの中国」が生まれたことを確認し、中華人民共和国の成立が東アジアにどのような影響を与えたかを理解する。</li> <li>・現在まで続いているパレスチナ問題について、政治的、歴史的、宗教的要因を理解する。</li> </ul>
〈郷土史：ふるさと富山〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富山県の独立と県政のスタート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分県運動について富山県・石川県それぞれの立場に立ち、考察する。</li> </ul>
自由民権運動と富山県の独立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大衆社会への鳴動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富山県から発生し、首相を辞めさせるほどの力をもった米騒動の発生原因、経過についてグループで考察する。</li> </ul>
女房たちの米騒動		
第4章 三つの世界と日本の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三世界の台頭とラテンアメリカ</li> <li>・変容する冷戦</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二次大戦後に独立を達成したアジア・アフリカ諸国が緊張緩和と平和共存を訴える役割を果たしたことを理解する。</li> <li>・1950年代前半から訪れた冷戦の転機や緊張緩和の機運、アメリカの指導力低下による多極化について考察する。</li> </ul>
第5章 地域社会への歩みと課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の動揺とベトナム戦争</li> <li>・アメリカ合衆国の動揺</li> <li>・東アジア、東南アジアの変容</li> <li>・西アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変容</li> <li>・冷戦の終結</li> <li>・経済のグローバル化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国の文化大革命やベトナムの内戦について甚大な被害を出したことを理解する。</li> <li>・アメリカによる変動相場制移行の背景と、世界経済に与えた影響を理解する。</li> <li>・アジア諸国の変容は日本にも大きな関わりを持っていることを理解する。</li> <li>・中東紛争やイラン・イラク関係についてアメリカとの関係もあわせて理解する。</li> <li>・冷戦が終結してソ連が消滅したことを理解する。</li> </ul>

<p>第6章 持続可能な社会への展</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冷戦後のアメリカと国際社会</li> <li>・ 21世紀の世界と日本</li> <li>・ 地域紛争と国際社会</li> <li>・ 核兵器と人類の共存</li>   <li>・ 地球環境問題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グローバリゼーションとリージョナリズムをめぐる世界の動きを考察する。</li> <li>・ 日本がこれからの世界で果たすべき役割を考察し、日米関係、日本の安全保障、北方領土問題、竹島貴族問題、尖閣諸島領有など近隣諸国との間の課題について認識し、自分の意見をまとめる。</li> <li>・ 冷戦終結後に頻発している民族対立や地域紛争について考察する。</li> <li>・ 冷戦下で進んだ核開発競争の背景にある核抑止論の存在、核廃絶運動や核軍縮の動きについて考察する。</li> <li>・ 温室効果ガスによる地球温暖化や酸性雨、オゾン層破壊などは地球規模で環境に変化を与える存在であることを理解する。</li> </ul>
---------------------------	---	---